



皆様の「快適な暮らし」のヒントに  
**すまい造りメール**

第223号 2020年10月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和2年9月18日  
発行元有限会社佐野工務店  
〒237-0068  
横須賀市追浜本町1-25  
TEL 046(865)4010  
FAX 046(865)6139  
http://www.sano-k.net/  
info@sano-k.net

「禍を転じて福と為す」 ～法福寺～

追浜之祖師こと日蓮宗浦谷山法福寺は、創建500年を越える古刹で、現在の住職は第36世にあたります。このコロナ禍で穏やかに暮らす「心の在り方」についてお話しを伺いました。



日本のみならず、世界を震撼させたコロナ禍は、これでもかというほどに、人間の本质を露わにさらけ出しました。

目に見えない脅威によって、どんなことが起こったのでしょうか。コロナが蔓延し始めた頃の右往左往した日々を振り返り、人間の弱さと愚かさ気づき、「学び」となればと思います。残念ながら、いじめや差別も生まれました。気持ちまでウイルスに感染しないよう、人の心を失わないようにしたいものです。

仏教の教えにも「三密」という言葉があります。「三密・三業」とは、身業＝行い、口業＝言語表現、意業＝心意作用を指し、「『行動』『言葉』『考え』に気をつけて善行を積み重ねなさい」ということです。こちらの「三密」の意味も是非覚えておいてください。

コロナとの闘いは始まったばかり、長い共存の時代になるでしょう。それを乗り越えるために、善い行いを実践しましょう。皆と共に生き、共に栄えていくために。

(日蓮宗浦谷山法福寺 国府田義昭住職)



日蓮宗浦谷山法福寺  
横須賀市追浜本町1-19  
創建1494年  
毎年2月開催の節分会では大勢の参詣者で賑わいます

介護保険制度を利用した住宅改修工事を担当させていただいたお住まいをご紹介します。

庭や駐車場に面したリビングの掃き出しからの出入りを楽にしたいというご要望です。洗濯物を干したり、庭に水を撒いたり、頻りに使用しているので、手すりを設置して安全に出入りしたいというコンセプトです。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

「庭の景観を壊すことのない色使いで良かったです。段差を気にすることなく、安心して出入りができるようになりました」という感想をいただきました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォア、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます  
創業 1960.1.20. Next100  
創刊 2002.4.1.

よこすか文学館

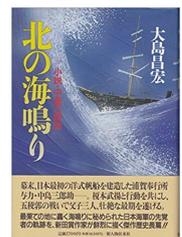
<58>

横須賀が登場する文芸や横須賀にゆかりのある文学者を紹介します。

大島昌弘

『北の海鳴り 小説・中島三郎助』(新人物往来社)

幕末の浦賀奉行所与力中島三郎助の後半生を描いた時代小説。物語は、嘉永6年(1853)のペリー来航で始まります。その時、三郎助は米国将校に対し副奉行を詐称するといった臨機応変の対応をみせ、その直後に浦賀を訪れた勘定奉行川路聖謨(かわじ・としあきら)の依頼で西洋型帆船鳳凰丸を建造します。また若き日の桂小五郎(木戸孝允)が三郎助に内弟子として入門し、短期間ですが、造船、砲術などの手ほどきを受けました。幕府による長崎海軍伝習所創設にあたって三郎助は一期生に選抜され、勝海舟らとともに学び、その後、幕府の海軍で指導者として活躍しました。幕府崩壊後、榎本武揚とともに北海道で官軍と戦い、戦死するという壮絶な最期を遂げます。



洗足学園中学高校教諭  
中島正二

## 横須賀製鉄所物語（勝麟太郎の意欲と挫折②） <69>

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

勝麟太郎は、長崎海軍伝習所の1期生として入所しますが、何故か1年終了のコース設定にも関わらず、2期生、3期生の名と共に継続して記されています。

勝麟太郎は、3年間観光丸を操船し周辺海域での運行訓練を実施して、軍艦の運航には十分に自信を持っていました。したがって、操船の実績が無いに等しいにもかかわらず、軍艦奉行に木村撰津守が任命されたこと、こうした人選をした幕府高官の鼻を明かそうとの思いで浦賀に向かいました。

浦賀に到着すると、東叶神社に参拝し航海の安全を祈願しました。その後、断食をして、さらなる神への祈念を深めました。現在でも東叶神社にはその事蹟が残されています。

浦賀港に到着し、航海用の積み荷が行われ準備万端整ったところで、正使一行のポーハタン号と共に日本を出港すべきものを、ポーハタン号よりも一足先にアメリカ本土を目指しました。勝麟太郎の胸の内には、日本人だけで威臨丸を運航してアメリカ本土へ最初に足跡を残そうと考えていたものと思われます。

しかし、江戸湾を出て北上すると、もの凄い時化に遭い、勝麟太郎は操船の指揮どころか自らの船室から一歩も出ることができず、船酔いに苦しむことになりました。船は同乗していたアメリカ海軍ブルック大尉の指揮により、そして、アメリカ海軍の軍人の操船により、サンフランシスコを目指しました。その後、日本人士官も荒波になれると共にブルック大尉の操船指導を受けて、協力することが出来るようになりました。

長崎海軍伝習所の教育と日本近海での航海訓練は全て役に立たず、海の自然の猛威を実感し、士官達は操船技術を磨き上げることができました。

自室から一歩も出ることでもできなかった勝麟太郎は、挫折感のみが大きく覆い被さりました。そして、士官達からも頼りにされず、アメリカの地を踏みました。



東叶神社

(元横須賀市助役 井上吉隆)



「横須賀製鉄所物語」（井上吉隆著）は、幕末の1865年、江戸幕府の勘定奉行小栗上野介の進言により、フランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーの下、横須賀の地で建設が始まり、その後、明治新政府に引き継がれたあと1871年に完成し、日本の近代化に大きく貢献した横須賀製鉄所について史実に基づいて再検証しまとめたもので、「すまい造りメール」に第137号「小栗上野介と勝海舟」（2013年7月30日発行）より連載させていただいています。

## 2020年10月号付録 SANTA'S HOUSE KIT BOX

弊社では、よこすか産業まつりに「家族でゆったりと、みんなで楽しく、夢のある『すまい造り』を自分で考え、手を動かし、完成させよう」というコンセプトで、2009年よりサイコロキャラメル空き箱を使ったペーパークラフト教室「みんなde街づくり」を出展させていただいています。しかしながら、ご存知の通り、2019年、2020年と2年連続でイベント自体が中止になってしまいました。

そこで、2018年よりサンタさんの家をテーマに展開していた「SANTA'S HOUSE」をお家で簡単に作れるキットにして、作り方とサイコロキャラメル空き箱、デコレーションセットなど2軒分をまとめて箱に詰めました。ご希望の方（先着20名様）にプレゼントさせていただきます。電話、またはハガキやメールでお名前とご住所、意気込みを弊社までご連絡ください。

もしよろしければ、完成した作品を写真に撮ってメールなどで弊社まで送ってください。この「すまい造りメール」の誌面で紹介させていただきます。作成した家のコンセプトやご感想も忘れずにお書きください。



### お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2020」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店  
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索